

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	情報リテラシー IV	配当学年	2
講義名（コード）	情報リテラシーⅣ	単位数	4
対象学科	GB	時間数	60
対象コース	DB	講義期間	秋学期
専攻		履修区分	必修
授業担当者	鈴木 祥夫	授業形態	講義
成績評価教員	鈴木 祥夫	実務者教員	実務者
実務者教員特記欄	本講義は、実務家教員による授業である。		

2. 本授業科目の概要

目的（位置づけ）	人工知能を利用したビジネス活用・人材・スキルを学ぶ1つの手段として、学習体系が整備されている、G検定を目標として学習を進める。
到達目標	G検定の合格または内容の理解。
全体の内容と概要	AI、機械学習、ディープラーニングの関連性を正しく理解し、技術者と一般の利用者の橋渡しができるようになる。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項	
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	講師	授業内容
1	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	①人工知能(AI) 人工知能(AI)とは AI、機械学習、ディープラーニングの関連性
2	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	AIの歴史と技術の動向 AI分野の問題
3	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	②機械学習 機械学習の基礎概念 代表的な機械学習の手法と応用例
4	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	学習済みモデルの精度評価 モデルの精度チューニングの手法
5	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	③ディープラーニングの基礎概念と応用技術 ニューラルネットワークの仕組みと学習方法 ニューラルネットワークにおける難点と実用化に向けた工夫 計算リソース
6	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	④ディープラーニングの代表的テクニック ディープラーニングの精度向上のための工夫 画像認識の王道手法・畳み込みニューラルネットワーク(CNN)
7	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	ディープラーニングの応用分野(RNN、深層強化学習、深層生成モデル)
8	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	⑤ディープラーニングの研究分野 画像認識
9	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	自然言語処理
10	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	ロボティクス、マルチモーダルAI
11	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	⑥ディープラーニングの応用に伴う社会的課題 AIプロジェクトの計画と進め方 データの収集・加工・利用
12	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	個人情報とプライバシー 知的財産、特許、著作権
13	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	問題演習
14	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	問題演習
15	AIスペシャリスト講師 鈴木 祥夫	期末評価

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ディープラーニング G検定
参考文献・資料等	
備考	・本教員は大手IT企業においてSEとしてソフトウェア開発、アプリケーション開発等に従事し、現在は学校等の高等教育機関にて指導を展開している。